2020度事業状況報告書

（2020年4月1日～2021年3月31日）

■2020年度事業状況報告　1頁

■2020年度貸借対照表　17頁

■2020年度理事会及び評議員会開催状況　19頁

公益財団法人千里文化財団

■2020年度事業状況報告

当財団の目的は、「文化人類学・民族学等の振興を図るため、関係諸機関と連携しその普及に努める。それらの活動を通して人類の多様な社会や文化に対する市民の理解と教養を培い、地域社会に根ざしつつ、ひろく国際社会に貢献することを目的とする。」と定められ、その目的を達成するための各種事業を推進するとともに、現代社会の諸問題を解く鍵として、文化人類学・民族学の視点を活かし、国立民族学博物館（以下文中の「民博」、「みんぱく」は省略表記）をはじめ各種研究機関と連携し、文化振興や次世代育成等さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

2020 年度事業概要：2020 年度は 2 月 28 日からの新型コロナウィルス感染症拡大の影響による臨時休館が 6 月 17 日まで継続し、約 4 ヵ月間の館内のショップ事業と展示案内学習支援業務が業務中止となった。民博が再開後も、感染症拡大防止対策として来館者受入制限等が続くとともに、全国的な外出等の自粛ムードも相まって、年度計画事業においても、中止や実施規模を縮小せざるをえない状況であった。それに伴い、事業収入が大幅に減少した。

2021 年においても入 4 月 25 日より大阪府の緊急事態宣言の発令に伴う臨時休館が実施され、特別展期間に期待されていた会費及びショップ収入が見込めず、先が見通せない厳しい状況が継続している。

なお、公益認定については、予定通り 9 月に電子申請し、令和 3 年 4 月 1 日付で認定された。

〈2020 年度新型コロナウィルス感染症に伴う対応について〉

1) 臨時休館中のショップ事業職員及び友の会事業等職員について雇用調整助成金を申請し受理された。
2) 臨時休館により業務中止となった受託事業の展示案内学習支援業務の職員(常勤)16 名については、代替業務を受託した。休業対象となった非常勤メンバー（臨時職員 38 名：ショップ職員も含む）については、2 回休業手当を支給し、雇用調整助成金を申請し受理された。
3) 大幅な事業収入減少については、持続化給付金を申請し受理された。
4) 家賃支援給付金についても賃料の負担の軽減のため申請をおこない、受理された。
5) 友の会会員へのサービスである海外及び国内でのツアー及び館外での催しは実施できなった。館内での講演会については、オンライン併用で博物館活動の指針に基づき 8 月より再開した。新たなサービスとしてオンラインレクチャーをスタートした。「友の会ニュース」は追加発行した。
6) 友の会会員へは、臨時休館期間分の特別フリーパス（入館証）の発行、みんぱくフリーパスは相当分の有効期限の延長を民博の了承のもと実施した。

〈梅棹忠夫生誕 100 年記念関連事業の実施について〉

1) 梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」への開催協力をおこなった。
   新型コロナウイルス感染症拡大の影響による臨時休館で、会期が 4 月 23 日（木）～ 6 月 23 日（火）から 9 月 3 日（木）～12 月 1 日（火）に延期し開催された。
2) 書籍『梅棹忠夫 ―― 知的先覚者の軌跡』の再版（四刷）（2020 年 3 月）をおこない、販売した。
3) 第 500 回みんぱく友の会講演会 梅棹忠夫生誕 100 年記念対談を実施した。
   臨時休館となったため、予定の開催日 2020 年 5 月 9 日（土）を延長し、9 月 5 日（土）に開催した。
4) 『季刊民族学』172 号（2020 年 4 月 25 日発行）での記念特集をおこなった。
   タイトル：梅棹忠夫生誕 100 年記念特集「1970 年、梅棹忠夫が見ていた未来」
5) 京都大学総合博物館 特別展「梅棹忠夫生誕 100 年記念 知的生産のフロンティア」への開催協力をおこなった。会期：2021 年 1 月 13 日（水）～3 月 14 日（日）

1.文化人類学・民族学等普及事業

一般市民を対象に文化人類学・民族学の普及のため、国内唯一の文化人類学・民族学の研究センターである国立民族学博物館の協力のもと、学術情報をわかりやすく提供する各種事業を企画・実施

1) 「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備並びに支援業務」に協力した。
   別紙 1：上記事業報告

2) 文化人類学・民族学の研究促進・普及を目的とした図書の企画として、家庭学術雑誌である国立民族学博物館友の会機関誌『季刊民族学』4 号（172 号～175 号）を編集、発行した。2020 年は、'70 年万博から 50 年の節目にあたる年となるため、175 号で実施した関連事業の特集を組んだ。

※172 号より、普及活動として書店での取扱いを促進するため取次会社を通して全国の書店に配本した。
別紙２：『季刊民族学』表紙＆目次

3) 文化人類学・民族学の普及を目的とした各種講演会・セミナー等を企画・運営した。
別紙３：上記講演会等開催内容

2.国立民族学博物館利用促進事業

国立民族学博物館の利用促進を目的として、一般市民を対象にした各種協力事業を実施

1）国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作及び頒布事業を実施した。

① 国立民族学博物館の展示理解向上及び普及のための教材制作及び頒布事業
国立民族学博物館ミュージアム・ショップの運営：国立民族学博物館発行物の頒布、レプリカ・ポストカード、記念品等の制作及び頒布、現地産民族資料及び文化人類学・民族学関連図書の頒布をおこなった。
<u>2020 年度教材頒布の取扱い内容</u>：
□レプリカ、ポストカード類：内容）砂金の分銅等レプリカ、ポストカード
□現地産民族資料（約 100 カ国）
内容）芸能・儀礼資料(仮面、楽器他)、生活資料(衣類、嗜好品、装飾品他)
□文化人類学・民族学関連図書・映像音響資料
内容）図書約 4,000 種、民族音楽等の CD・DVD 約 50 種
□記念品（オリジナル・グッズ)、便宜共用品
内容）クリアファイル、一筆箋、T シャツ、レターセット、スタンプ、トートバッグ、マグカップ、切手、雨傘 他

2）国立民族学博物館の普及事業を各種実施した。

① 「国立民族学博物館友の会」の運営：国立民族学博物館並びに文化人類学・民族学の普及を目的とし、千里文化財団が国立民族学博物館と市民のあいだのかけはしとなる友の会を設け、博物館の活動を支援するとともに、市民の博物館活用を促すことを目的とし運営している。

② 「国立民族学博物館友の会」会員の増強
2021 年 3 月末現在の件数：維持会員 117 口（法人 55 社　/個人 4 名)、正会員 1,260 件、家族会員 47 件、ミュージアム会員 116 件、フリーパス 104 件、キャンパスメンバーズ 7 校
別紙 5：国立民族学博物館入館者数
別紙 6：「国立民族学博物館友の会」会員数登録件数の推移

2020 年度友の会増強への取り組み

・臨時休館期間の正会員・ミュージアム会員への措置として特別フリーパスの送付をおこなった。
・みんぱくフリーパスは臨時休館相当の期間延長
・「友の会ニュース」の追加発行をおこなった。通常は年 6 回発行。2020 年度は 8 回発行。
・万博記念公園の割引提供等、サービスの追加、一覧も追加修正
・創設当初（発足から 3 ヶ年）よりご継続の会員へオリジナルカレンダーの送付（約 300 件）

③ 「キャンパスメンバーズ」の運営及び増強
キャンパスメンバーズの退会：京都市立芸術大学　京都文教大学

④ 国立民族学博物館広報誌『月刊みんぱく』作成支援業務を受託し実施した。

⑤ 国立民族学博物館オリジナルカレンダー「先住民の宝」の制作及び広報普及活動をおこなった。

⑥ 国立民族学博物館外部広報事業　「阪急生活楽校」との連携講演会の開催
※新型コロナウィルス感染症拡大の影響により休止

3）国立民族学博物館来館者の学習支援事業（受託事業）

① 展示案内学習支援等業務を受託し実施した。※臨時休館中は業務中止となり、代替業務を受託した。展示資料に関する情報提供・案内・学習支援、各展示場の施設・設備の案内、看視業務をおこない、来館者への研究成果の情報提供を有効におこなう業務

② 研究資料整理・情報化及び利用管理業務を受託し実施した。
標本資料及び映像・音響資料に関する情報の作成及び資料の整理等をおこなうとともに、情報サービス、展示準備・展示運営のための資料管理及び情報の作成・管理等をおこなう業務

③ 民族学資料共同利用窓口業務を受託し実施した。
国立民族学博物館の民族学資料（標本資料、文献図書資料、オリジナル映像・音響資料及び研究アーカイブズ資料）について館内外からの問い合わせに対応する窓口業務

④ ゼミナール・研究公演等受付案内業務を受託し実施した。

⑤ 「みんぱくウィークエンド・サロン―研究者と話そう」実施業務を受託し実施した。

⑥ シャトルバス利用者の誘導・看視及び案内等業務を受託し実施した。

⑦ 映画会及び研究公演の事前予約受付業務を受託し実施した。※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として追加された業務

4) その他、国立民族学博物館活動に協力する各種事業

① 国立民族学博物館特別展及び企画展に対する協力として各種広報活動を実施した。
特別展「先住民の宝」（2020 年 10 月 1 日～12 月 15 日 ※変更前会期 2020 年 3 月 19 日～6 月 2 日）、特別展「復興を支える地域の文化」（2021 年 3 月 4 日～5 月 18 日）、企画展等各種催しの広報活動をおこなった。

② 国立民族学博物館館外催しへの協力事業
京都大学総合博物館 梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」への開催協力

3.博物館活動支援及び調査研究事業

博物館に集積された知的財産を活用するプログラムを企画し、そのあり方を調査研究するとともに博物館活動を支援

1) 博物館に集積された資料と情報の活用方法及び博物館等の連携のあり方に関する調査をおこなった。

① 出前授業プログラム開発

② 各地の博物館等の施設を活用する巡回展等
2020 年度実施した外部展示：特別展「驚異と怪異――モンスターたちは告げる」
会期：6 月 23 日（水）～ 8 月 16 日（月） 48 日間
会場：兵庫県立歴史博物館
入場者数：14,016 人 別紙 4：開催報告

2）博物館運営や展示のあり方に関する調査研究
指定管理者制度における博物館運営に関する調査、巡回展のための什器に関する調査、博物館におけるミュージアム・ショップの役割に関する調査をおこなった。

3）各地の博物館展示案内等の編集業務
日本生命財団より、愛媛県総合科学博物館展示案内『山と海が育てた愛媛の産業』（2021 年 3 月 1 日発行）の編集協力を受託し実施した。
（地域文化の振興・青少年の文化教育に資するため、全国各地の博物館の協力を得て各博物館の展示案内を出版する事業）

4.地域活性化、文化振興協力事業
多様な文化の振興をめざし、各種文化活動に協力した。

1）日本万国博覧会記念公園関連施設との連携事業

① 2025 年大阪・関西万博関連事業として、第 38 回比較文明学会大会を「『いのち』をめぐる文明的課題の解決に向けて」を統一テーマとし実施し、2025 年開催の大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」につなげるとともに、今年は1970年の大阪万博から50年にあたり、梅棹忠夫、小松左京、加藤秀俊らが起草にかかわった「人類の進歩と調和」の理念がいかに継承されてきたか、また日本開催の次の万博に向けていかに継承していくかを問う機会とした。

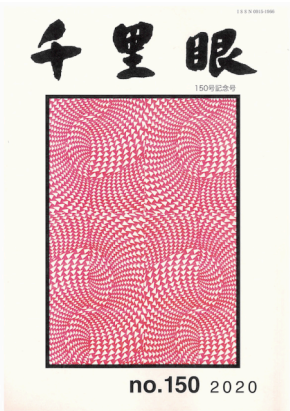
会場：国立民族学博物館セミナー室　※オンライン併用にて実施
会期：11 月 21 日（土）・22 日（日）・23 日（月・祝）
主催：比較文明学会・国立民族学博物館・千里文化財団
助成：関西・大阪 21 世紀協会　　別紙 5：開催報告

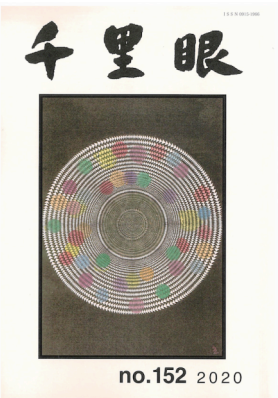
② 関連施設との連携：公園内施設との相互割引提携の調整、実施

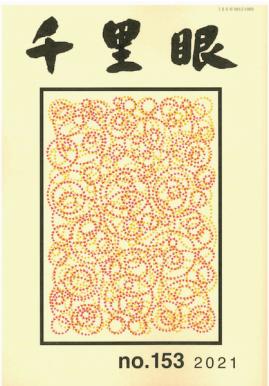
2）松下幸之助記念財団から第 29 回「松下幸之助花の万博記念賞」選考に関する業務を受託し実施した。
5 月：選考委員会の開催（オンライン開催）　6 月：推薦人へ推薦の依頼文書送付
8 月～9 月：推薦内容の集約及びまとめ　　9 月及び 10 月：選考委員会の開催

3）「日本展示学会」の事務業務を受託し実施した。
会員管理（通年）、4 月：学会誌の発送、6 月：理事会・総会（書面開催）、9 月：研究大会（オンライン開催）、「展示論講座」（オンライン開催）

4）同人雑誌『千里眼』の編集を受託し、第 150 号～第 153 号の 4 号を発行した。
2021 年 3 月 1 日時点の同人数 46 名
※『千里眼』は 2020 年 6 月末発行号で 150 号を迎えた。
通常の寄稿とは別に、テーマ「150 号に寄せて」の寄稿を依頼し特集した。







5）長野県との「信州の山岳文化創生事業」の推進に関する包括連携協定に基づく協力
※新型コロナウィルス感染症拡大の影響により休止

「梅棹忠夫アーカイブズ資料の整理及びそれに基づく基礎データの整備並びに支援業務」事業報告

2020 年度は、新型コロナウィルス感染症拡大の影響による民博全館閉館や在宅勤務など、例年とは大きく異なる勤務形態での業務となった。

本年度、大きな比重を占めた業務は、国立民族学博物館での梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」と、京都大学総合博物館特別展「梅棹忠夫生誕 100 年記念 知的生産のフロンティア」の開催協力であり、二つの展覧会は、長年にわたる資料整理と基礎データ作成、データベース構築の成果発表の場となり、厳しい社会状況にもかかわらず多くの観覧者があった。

前述のように特別な状況の一年であったが、通常の業務も滞りなくおこなった。内容は、梅棹が関わった事業の「一件ファイル」（約 1 万件）、「現地調査ファイル」、「梅棹著作物棚」の整理・点検（内容確認、資料補填、排架ほか）、データベース（以下 DB）の基礎データ（リスト、資料目録、画像データ）を作成した。また、200 件以上の利用・活用（閲覧、資料利用、公開、研究支援、出版、展示、見学等）の対応をおこなった。特に、梅棹生誕 100 年関連の事業、『知的生産の技術』100 刷発行等に関する問い合わせや取材に協力して、多くの記事が生みだされた。

1）整理と基礎データ整備：国立民族学博物館 HP 公開中の梅棹アーカイブズ「全リスト」より。
・「6. 一件ファイル」は、著作業績、展覧会開催関連資料を中心に内容確認、点検、リスト（DB）を更新。
・「8. 現地調査ファイル」は、みんぱく企画展、および京都大学総合博物館特別展開催（展示、デジタルコンテンツ作成用）関連資料（内モンゴル調査、ヒンズークシ、東南アジア等）を重点的に再確認。
・「著作物」（初版、増刷）の整理と整備（点検、資料補填、リスト作成等）。

2）国立民族学博物館ホームページでの Web 公開：DB『梅棹忠夫著作目録（1934～）』は、資料整理、補填等の整備と、レコードの新規登録、更新。

3）「引紹批言録」の整備：DB 制作準備（レコード作成、リスト公開準備、及び情報収集と資料整理）。

4）資料のデジタル化（学術研究用 累計約 58,400 コマ）：画像、画像目録を作成。
原資料のデジタル化（画像作成、資料目録(160 レコード)及び画像目録作成）を進めた。以下、概略。
【現地調査ファイルほか】旧制高校、大学時代の受講ノート 47 フォルダー、2,132 ファイル作成（画像 5 種類）。
【梅棹業績資料】1965-66 年までの著作 113 フォルダー、1,212 ファイル作成（画像 5 種類）。
【その他】『第三高等学校卒業アルバム』画像データ作成と整備。

5）写真資料の整理：「梅棹忠夫写真コレクション（全 35,420 点）」（民博 HP 館内限定公開中）は、注記を確認し、梅棹の著作物内の照合をおこない加筆修正。また、「1986 年 中国」（1,092 件）は、韓敏教授の協力を得て、撮影地等の情報追加を進めた。

6）資料の修理：『第三高等学校卒業アルバム』や 1960 年代の著作物等の該当資料選定と、修理（7 点）。

7）利用：件数 206 件（2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）
令和 2（2020）年度 新任職員等研修への協力（オンライン）ほか、閲覧、資料利用、公開、研究支援、出版、展示、見学、情報提供への対応等。

8）利用成果物：「利用成果物一覧」を作成、該当成果物は 115 件（2020 年 4 月～2021 年 3 月）。

9）資料利用に関わる事務書類の整備：「研究アーカイブズ資料利用細則」の改正や「研究アーカイブズ資料利用申請書」の作成協力、研究アーカイブズ資料貸付「調査記録票」の新規作成の提案。

10）国立民族学博物館 梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」開催への協力
【会合開催等】実行委員会の開催ほか、関係各所への連絡。
【展示】図面の内容確認。レイアウト、パネル、バナー、レプリカほかの制作支援。
【展示資料】キャプション、及び解説の作成協力。
【デジタルコンテンツ展示】資料選択、展示用データ作成ほか。
【MMP 用マニュアル】解説作成の協力。
【見学、研究会】展示関連の室見学者受け入れ、関連研究会開催の協力。
【広報】『月刊みんぱく』、「みんぱくカレンダー」、プレス懇談会資料、プレスリリース用資料作成、および取材の支援協力。
【搬入】展示用リスト作成、資料搬入。
【撤収】資料撤収、返却資料確認等。
【演示等】資料確認、展示協力、演示。
【関連記事リスト作成】レコード総数 150 件（展覧会：102 件、生誕 100 年：28 件、生誕 100 年等記念出版：20 件）

11）京都大学総合博物館 特別展「梅棹忠夫生誕 100 年記念 知的生産のフロンティア」開催への協力
【連絡調整等】京都大学総合博物館、京都大学梅棹生誕百年事業委員会委員との連絡。
【貸付】資料台帳（画像付き）作成、書類作成、調査記録票作成協力。
【展示】図面、展示レイアウト、パネル、バナー、レプリカほかの制作支援協力。
【展示資料】資料選択、キャプション、及び解説の作成。
【関連イベント】洛北高校特別授業、連続講座の資料案内、提供等。
【搬入】資料確認、搬入搬出用リストとラベル作成、開梱等。
【撤収】梱包協力、資料撤収、返却資料の確認。
【演示等】現地での開梱、資料確認、展示協力、演示。
【広報】関連取材の協力。
【関連記事リスト作成】レコード数 37 件。

12）学習キットみんぱっく「あるく、ウメサオタダオ展」利用協力：
京都大学総合博物館特別展「梅棹忠夫生誕 100 年記念 知的生産のフロンティア」の展示に貸出協力。

13）『梅棹忠夫―知的先覚者の軌跡』制作時の写真撮影者との権利処理への協力：
みんぱくと尼川匡志氏（写真家）が交わす覚書の作成協力（該当写真と記載内容の確認、写真リスト作成、関係者への連絡等）。

14）館史関連事業への協力：
・アルバム『行幸』（昭和天皇）、額「活龍不滞水」（海部俊樹氏 元文部大臣）、芳名録などの資料保管協力。
・50 年史映像記録制作への関連資料案内等の協力。

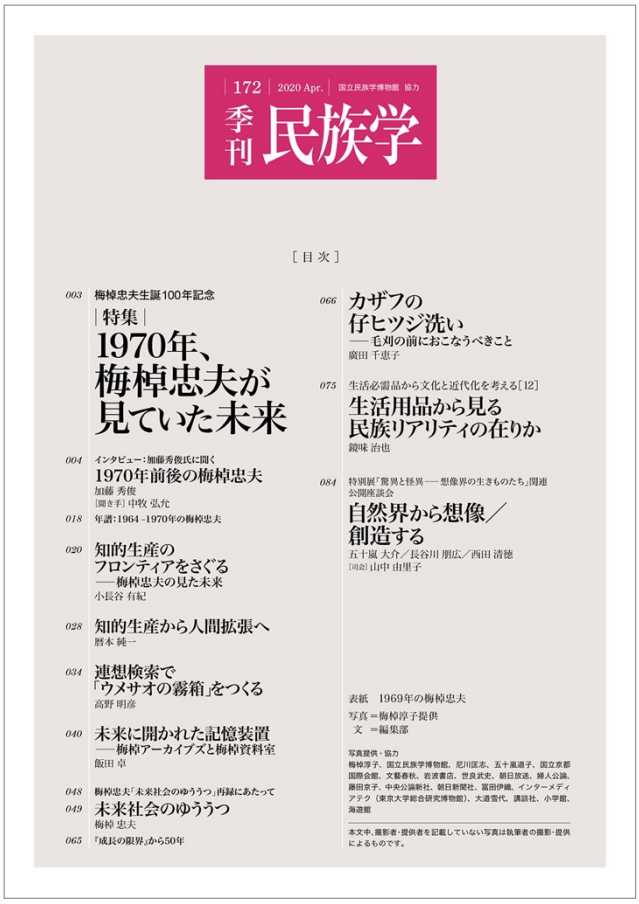
15）みんぱく図書室と関連した整理：書籍、逐次刊行物等の寄贈等。

16）室運営の業務、報告、記録：課題解決、進捗や計画を行うミーティングを 11 回開催し、「記録」作成。

17）室の環境整備：COVID-19 への対応記録作成。オンライン会議対応の整備、什器の補填など。

18）梅棹淳子氏（著作権継承者）への連絡：民博の出版送付、写真掲載、展示利用ほかの連絡。

172 号（2020 年 4 月 25 日発行）



172 | 2020 Apr. | 国立民族学博物館 協力

季刊 民族学

［目次］

003 梅棹忠夫生誕100年記念
| 特集 |
1970年、梅棹忠夫が見ていた未来

004 インタビュー：加藤秀俊氏に聞く
1970年前後の梅棹忠夫
加藤 秀俊
［聞き手］中牧 弘允

018 年譜：1964–1970年の梅棹忠夫

020 知的生産のフロンティアをさぐる
――梅棹忠夫の見た未来
小長谷 有紀

028 知的生産から人間拡張へ
磨本 純一

034 連想検索で「ウメサオの霧箱」をつくる
高野 明彦

040 未来に開かれた記憶装置
――梅棹アーカイブズと梅棹資料室
飯田 卓

048 梅棹忠夫「未来社会のゆううつ」再録にあたって
049 未来社会のゆううつ
梅棹 忠夫

065 『成長の限界』から50年

066 カザフの仔ヒツジ洗い
――毛刈の前におこなうべきこと
廣田 千恵子

075 生活必需品から文化と近代化を考える［12］
生活用品から見る民族リアリティの在りか
鄭 味 治也

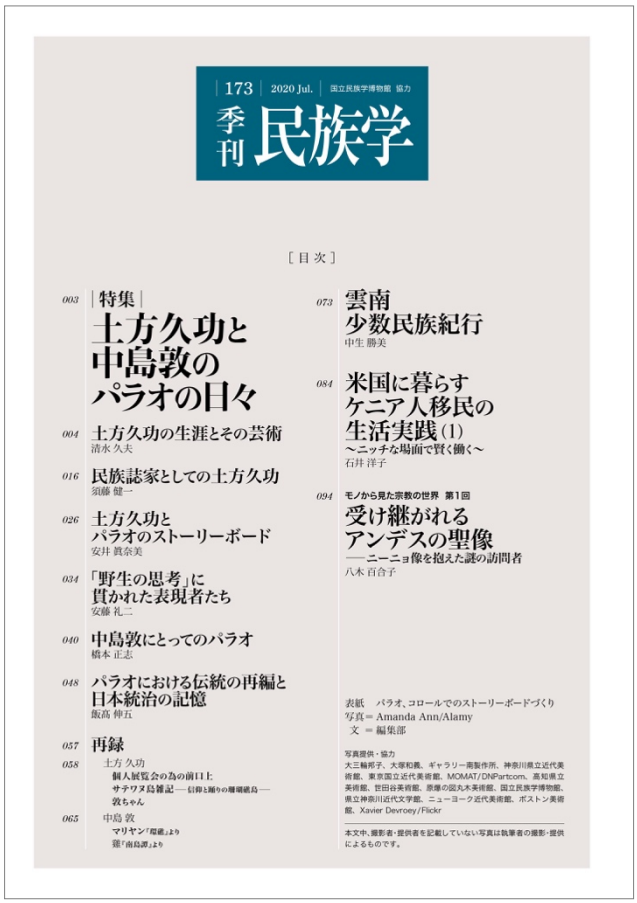
084 特別展「驚異と怪異――想像界の生きものたち」関連公開座談会
自然界から想像／創造する
五十嵐 大介／長谷川 朋広／西田 清徳
［司会］山中 由里子

表紙　1969年の梅棹忠夫
写真＝梅棹淳子提供
文　＝編集部

写真提供・協力
梅棹淳子、国立民族学博物館、尼川匡志、五十嵐遊子、国立京都国際会館、文藝春秋、岩波書店、世良武史、朝日放送、婦人公論、藤田京子、中央公論新社、朝日新聞社、冨田伊織、インターメディアテク（東京大学総合研究博物館）、大道雪代、講談社、小学館、海遊館

本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

173 号（2020 年 7 月 25 日発行）



173 | 2020 Jul. | 国立民族学博物館 協力

季刊 民族学

［目次］

003 | 特集 |
土方久功と中島敦のパラオの日々

004 土方久功の生涯とその芸術
清水 久夫

016 民族誌家としての土方久功
須藤 健一

026 土方久功とパラオのストーリーボード
安井 眞奈美

034 「野生の思考」に貫かれた表現者たち
安藤 礼二

040 中島敦にとってのパラオ
橋本 正志

048 パラオにおける伝統の再編と日本統治の記憶
飯高 伸五

057 再録
058 土方 久功
個人展覧会の為の前口上
サテワヌ島雑記――信仰と踊りの珊瑚礁島――
敦ちゃん
065 中島 敦
マリヤン「環礁」より
雞「南島譚」より

073 雲南少数民族紀行
中生 勝美

084 米国に暮らすケニア人移民の生活実践（1）
～ニッチな場面で賢く働く～
石井 洋子

094 モノから見た宗教の世界　第1回
受け継がれるアンデスの聖像
――ニーニョ像を抱えた謎の訪問者
八木 百合子

表紙　パラオ、コロールでのストーリーボードづくり
写真＝Amanda Ann/Alamy
文　＝編集部

写真提供・協力
大三輪邦子、大塚和義、ギャラリー南製作所、神奈川県立近代美術館、東京国立近代美術館、MOMAT/DNPartcom、高知県立美術館、世田谷美術館、原摩の図丸木美術館、国立民族学博物館、県立神奈川近代文学館、ニューヨーク近代美術館、ボストン美術館、Xavier Devroey/Flickr

本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

174 号（2020 年 10 月 25 日発行）

174 | 2020 Oct. | 国立民族学博物館 協力
季刊 民族学

［目次］

003 |特集|
キリスト教受容のかたち
──世界史のなかのかくれキリシタン

004 世界史のなかのイエズス会と日本布教
高橋 裕史

013 新大陸におけるキリスト教伝道と先住民
横山 和加子

023 聖トマスの恩寵
──インドにおけるキリスト教受容
杉本 良男

032 近世日本におけるキリスト教の土着化とキリシタンの殉教
狭間 芳樹

040 かくれキリシタンの信者と信仰
──ハッタイ様の行事と伝説から見えてきたこと
中園 成生

050 キリシタン遺物から見る大阪・北摂地域のキリスト教受容
桑野 梓

058 歴史記憶としての殉教者
──日本とフィリピンの間の高山右近とロレンソ・ルイス
古沢 ゆりあ

062 再洗礼派とかくれキリシタン
──東西の信仰秘匿者たち
踊 共二

070 米国に暮らすケニア人移民の生活実践(2)
～大陸を越えて密に支える～
石井 洋子

080 モノから見た宗教の世界 第2回
めぐりめぐる、インドの神がみの像
福内 千絵

089 誌上再録 トークイベント
ヒトってなんだ??
──ホモ・サピエンスの誕生から文化の獲得まで
篠田 謙一 × 池谷 和信

表紙 生月島のかくれキリシタン信仰の「お水取り」
写真・文＝中園成生

写真提供・協力
神戸市立博物館、茨木市教育委員会、Brion Jeffery Beggerly、Vmenkov、Tristan Higbee、Jean-Marc Astesana、プラド美術館、ARCA arte colonial、オックスフォード大学ボドリアン図書館、DIGITAL BODLEIAN、フランス国立図書館、小林勝、ポルトガル国立図書館、国立国会図書館、京都大学附属図書館、大分市歴史資料館、大英図書館、国際日本文化研究センター、公益財団法人東洋文庫、九州国立博物館、LuxTonnerre、京都大学総合博物館、京都大学研究資源アーカイブ、東京大学総合図書館、上智大学キリシタン文庫、カトリック大阪大司教区、日本二十六聖人記念館、松村博文、国立科学博物館、WORLD DIGITAL LIBRARY、Alamy、Flickr、Wikimedia Commons

本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

175 号（2021 年 1 月 25 日発行）

175 | 2021 Jan. | 国立民族学博物館 協力
季刊 民族学

［目次］

003 |特集|
生き物と現代文明

004 人類と生き物からみた現代文明
池谷 和信

014 命の重さを量る
遠藤 秀紀

022 貝殻に雨粒が宿れば。
──20世紀前半、世界商品化する真珠とペルシア湾の採集者たち
鈴木 英明

030 いのちの表現
橋本 麻里

040 「糞」の生態史でみた江戸時代
磯田 道史

044 都市の庭にみる植物と人
──東京・谷中の住宅の庭から
高野 哲司

052 人間の心、ロボットの心
高橋 英之

060 地球主義とミュージアム
──人新世における生物多様性の理解に向けて
野林 厚志

069 「いのち」をめぐる文明的課題の解決に向けて
──比較文明学会第38回大会を終えて
中牧 弘允

074 モノから見た宗教の世界 第3回
聖なるものの時・場所・かたち
──フィリピンの聖母崇敬の実践から
古沢 ゆりあ

083 それでも、獅子は旅を続ける
──伊勢大神楽の回檀の記録
神野 知恵

094 世界遺産の村に生きる
──東北タイ、バーンチェン遺跡の現在
中村 真里絵

表紙 ロバ車で移動するカラハリ砂漠の家族
写真・文＝池谷 和信

写真提供・協力
関西・大阪21世紀協会、比較文明学会、ジョンズ・ホプキンズ大学コロナウイルス資源センター、前川貴行、663highland、Barbara Fraatz、東京大学総合研究博物館、Sodacan、オランダ国立ライデン古代博物館、ナショナル・ポートレート・ギャラリー、Didier Descouens、Liné1、永青文庫、京都国立博物館、清凉寺、唐招提寺、東京国立博物館、香川県立ミュージアム、松平公益会、国立国会図書館、神奈川大学日本常民文化研究所、国際日本文化研究センター、おおえさき、Adrian Grycuk、国立故宮博物院、Teomancimit、Frank Vassen、国立科学博物館、Alan D. Wilson、Malene Thyssen、Diginatur、japanbearandforestsociety、Mohammad Abuzar photography、Tambako The Jaguar、Melvin TOULLEC、Merlin、Prof saxx、Anna Babich、2025年日本国際博覧会協会、伊勢大神楽講社、三木隆美、ゑびすや荒木旅館、バーンチェン国立博物館、Wikimedia Commons、INTERNET ARCHIVE、Pixabay、iStock.com

本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

国立民族学博物館友の会 講演会等 開催内容

１．「国立民族学博物館友の会」講演会

新型コロナウィルス感染症拡大の影響による臨時休館・入館制限などの感染防止対策に伴い、2020 年４～7 月まで休講。8 月以降は、館の活動基準に則り、開催方法を調整し実施。
【大阪】毎月第１土曜日 13：30～14：40　国立民族学博物館内で開催。
※講演会終了後の懇談会、見学会は開催は中止した。

第 503 回「福音以前の祖先の救済―キリシタン時代の日本」
8 月１日（土）　講師：齋藤 晃（民博教授）
<u>※会場とオンライン中継で開催</u>　会場：民博講堂　参加人数：会場 55 名、オンライン 48 名
キリスト教の日本での布教に際し、日本人が示した懸念は祖先の救済だった。彼らの問いに、宣教師らが自然法（人間が生まれながらに持っている善悪の判断）を遵守することで救われると説いたことを事例とともに紹介した。

第 504 回　第 500 回記念／梅棹忠夫生誕 100 年記念対談「知的生産のフロンティアの原点―探検家 梅棹忠夫を語る」
9 月５日（土）　会場：民博講堂 参加人数：会場 90 名 ※記録映像を 2021 年３月 31 日までネット公開
話者：石毛直道（民博元館長・名誉教授）、吉田憲司（民博館長）、飯田卓（民博教授）
初代館長 梅棹忠夫の「探検」をキーワードに対談を開催。探検を通して梅棹が体得した情報整理や組織運営の技術、登壇者との関係性等を振り返った。

第 505 回　特別展「先住民の宝」関連「トーテムポール―カナダ北西海岸先住民の宝」
10 月３日（土）　講師：岸上 伸啓（機構理事・民博併任教授）
<u>※会場とオンライン中継で開催</u>　会場：民博講堂　参加人数：会場 61 名、オンライン 28 名
カナダ北西海岸先住民のトーテムポールに着目し、役割、種類、歴史的変遷、特徴について解説するとともに、国立民族学博物館が所蔵する５本のトーテムポールについて紹介した。

第 506 回　「呪術として生き残った仏教―社会主義期モンゴルにおける世俗化・仏教実践・還俗ラマ」
11 月 14 日（土）　講師：島村一平（民博准教授）
<u>※会場とオンライン中継で開催</u>　会場：民博講堂　参加人数：会場 45 名、オンライン 42 名
宗教が否定されたとされる社会主義時代。モンゴル国を例に、社会主義時代による近代化が呪術として理解され、また仏教は呪術的実践に特化することで生き残ったのではないかという説を提示した。

第 507 回　「海洋考古学の世界―沖縄の水中文化遺産とその魅力」
12 月６日（土）　講師：小野林太郎（民博准教授）
<u>※会場とオンライン中継で開催</u>　会場：民博講堂　参加人数：会場 29 名、オンライン 33 名
海中遺跡のほか、島や沿岸域にのこされた遺跡が対象となる海洋考古学。本講演では沖縄県石垣島の海底遺跡を事例に、海洋考古学の可能性や遺跡保護の現状について紹介した。

第 508 回　「国立アイヌ民族博物館の魅力と課題―開館半年を迎えて」
2021 年１月９日（土）　講師：佐々木史郎（国立アイヌ民族博物館館長、民博名誉教授）
<u>※オンライン中継のみで開催</u>　参加人数：オンライン 97 名
北海道白老町に、2020 年７月に開館した国立アイヌ民族博物館。開館から半年を振り返り、博物館の特徴や今後の課題について紹介した。

第 509 回　「セネガル河上流域の変容と『文化週間』―故郷に残った人びとの選択」
2021 年２月６日（土）　講師：三島禎子（民博准教授）
<u>※オンライン中継でのみで開催</u>　参加人数：オンライン 67
他民族との連帯を謳う、民族主体の文化行事の意義について、みんぱく映像民族誌 第 34 集「セネガルを越える人と地域ラジオ」を視聴しながら考えた。

第 510 回　特別展「復興を支える地域の文化」関連「災害を後世に伝える―記録・供養・教訓」
2021 年 3 月 6 日（土）　講師：林勲男（民博教授）
※オンライン中継のみで開催　　参加人数：オンライン 40 名
「世界災害語り継ぎフォーラム」と津波常襲地域の津波碑を取り上げ、災害を語り継ぐことの意義と課題について考えた。

２．みんぱく友の会オンラインレクチャー

対面での催しを中止せざるをえない状況となったため、本年度から新たな会員サービス及び友の会増強活動として、友の会ウェブサイトにてミニレクチャー動画を公開した。

第 1 回【梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」に寄せて】
【前編】「梅棹忠夫が残した『こざね』とはどういうものか」（6 月 25 日公開、視聴回数 1557 回）
【後編】「『こざね』から復元する梅棹忠夫の『日本人の宗教』」（8 月 21 日公開、視聴回数 376 回）
話者：中牧弘允（千里文化財団理事長、民博名誉教授）
企画展「知的生産のフロンティア」の開催を踏まえ、梅棹忠夫の知的生産の技術に焦点をあてた映像番組を作成。前編では、手書きメモ「こざね」から梅棹の知的生産活動を紹介し、後編では未完『日本人の宗教』の構想を「こざね」の配列からさぐった。

第 2 回「感染症と文明―現下のコロナ禍に思う」（2021 年 1 月 5 日公開、視聴回数 547 回）
話者：吉田憲司（民博館長）
人類史上、文明の転換点には常に感染症の拡大がかかわってきた。現在、新型コロナウィルスの蔓延という未曾有の局面にたつわたしたちには、どのような智恵と感性が求められるのか、そのヒントをさぐった。

以下の事業は、新型コロナウィルス感染症拡大の影響により、中止となった。
「国立民族学博物館友の会 東京講演会」、「みんぱく見学会」、「体験セミナー」「民族学研修の旅」

第 500 回記念国立民族学博物館友の会講演会／梅棹忠夫生誕 100 年記念対談
「知的生産のフロンティアの原点―探検家 梅棹忠夫を語る」

□開催趣旨；友の会の定例行事「友の会講演会」は 1978 年にスタートし、2020 年に通算 500 回を迎えた。同年は、国立民族学博物館の初代館長であり、千里文化財団の初代会長でもあった梅棹忠夫の生誕 100 年にあたるため、梅棹の知的生産活動の原点でもある「探検」に焦点を当て、吉田憲司館長ならびに、　　石毛直道元館長による記念対談を開催した。なお、国立民族学博物館の梅棹忠夫生誕 100 年記念企画展「知的生産のフロンティア」の開催との連携も視野に入れ企画した。

講演会終了後、記録映像を友の会ウェブサイトにて公開した。
（公開期間：10 月 5 日～2021 年 3 月 31 日、視聴回数 1307 回）。
また『季刊民族学』176 号上では対談の内容を掲載した。

□開催日時：9 月 5 日（土）
※当初 5 月開催で予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、9 月に延期し実施した。
□話者：石毛直道（民博元館長・名誉教授）、吉田憲司（民博館長）
□ファシリテーター：飯田卓（民博教授）
□会場：国立民族学博物館　講堂
□参加者数：90 名
□開催内容：
国立民族学博物館初代館長 梅棹忠夫は、知的生産活動において常に新領域を開拓し続けた。知的生産のフロンティアを歩き続けた梅棹は、研究の根は山からはじまり、その原点は探検にあると述べている。本講演では、探検家としての梅棹忠夫に焦点を当て、石毛直道第 3 代館長と吉田憲司第 6 代現館長の対談をとおしてその思想の源をさぐった。
□主催：千里文化財団
□共催：国立民族学博物館
□参加費：無料（定員 105 名）

国立民族学博物館巡回展「驚異と怪異」　開催報告

1. **名　　称**　特別展「驚異と怪異――モンスターたちは告げる」

2. **概　　要**　ヨーロッパや中東においては、犬頭人、一角獣といった不可思議ではあるが実在するかもしれない「驚異」は、神の偉大な力を示すものととらえられ、自然に関する知識の一部として伝えられた。また、東アジアにおいては、流星や異形の生き物の誕生など、通常とは異なる現象は、天や神仏からの警告である「怪異」としてとらえられ、歴史書のなかに記録された。本展では、国立民族学博物館所蔵の民族資料を中心に、人魚、竜、怪鳥、一角獣など、さまざまな世界の想像上の生き物について紹介するとともに、警告・凶兆（モンストルム）を語源とする怪物（モンスター）の文化史的な意味についても紹介した。

3. **主　　催**　兵庫県立歴史博物館　国立民族学博物館　神戸新聞社　千里文化財団

4. **後　　援**　兵庫県　兵庫県教育委員会　NHK 神戸放送　サンテレビジョン　ラジオ関西

5. **協　　力**　山陽電気鉄道株式会社　神姫バス株式会社

6. **特別協力**　ライデン国立民族学博物館

7. **開催期間**　2020 年 6 月 23 日（火）～ 8 月 16 日（日）　(48 日間)
   ※2020 年 4 月 25 日（土）～ 6 月 14 日（日）44 日間の開催予定であったが、
   新型コロナウィルスの影響により上記期間での開催となった。

8. **開館時間**　10:00～17:00（入館は閉館の 30 分前まで）

9. **休 館 日**　月曜日（8 月 10 日（月･祝）は開館、8 月 11 日（火）は休館）

10. **会　　場**　兵庫県立歴史博物館　〈〒670-0012　兵庫県姫路市本町 68 番地〉
    特別展示室（909.53 ㎡）

11. **展示点数**　計 267 点
    （国立民族学博物館資料 138 点、ライデン国立民族学博物館資料 11 点、
    兵庫県立歴史博物館資料 44 点、他ミュージアム・個人所蔵資料 74 点）

12. **観 覧 料**　一般 1000 円、大学生 700 円、70 歳以上 500 円、高校生以下無料
    ※20 名以上の団体は各 200 円割引。国立民族学博物館友の会会員は会員証提示で団体料金。

13. **入場者数**　14,016 名

新型コロナウィルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令に伴い両館が閉鎖になり、民博職員の設営立ち合いのための出張も不可能になったため、会期を2020（令和２）年４月25日～6月14日から6月23日～　8月16日に延期した。それにともない、民博及びその他借用先に対して借用資料の期間の延長、展示・撤去作業日程等の再調整をおこなうこととなった。また、オランダのライデン民族学博物館の借用資料に関しては当初、閉幕後にクーリエ（資料を貸し出す館の担当）が来日して資料のコンディションチェック、撤去と梱包をおこなう行程だったが、日本における海外からの入国制限で来日が不可能となったため、代わりに　オランダ側とオンライン中継で繋ぎ作業を実施し、返却をおこなった。

14. 広　　報

５月 17 日	フランス通信社
５月 19 日	朝日新聞デジタル
６月８日	日本経済新聞電子版
６月 10 日	神戸新聞 NEXT
６月 16 日	神戸新聞 NEXT
６月 23 日	神戸新聞 NEXT
６月 24 日	神戸新聞 NEXT
７月２日	神戸新聞 NEXT
７月 10 日	日本経済新聞電子版
７月 25 日	神戸新聞 NEXT
７月 25 日	毎日新聞（地方版）
８月６日	NHK（総合）

兵庫県立歴史博物館

第 38 回比較文明学会大会 開催報告

１．**名　　称**：第 38 回比較文明学会大会「『いのち』をめぐる文明的課題の解決に向けて」

２．**大会趣旨**：本大会では「『いのち』をめぐる文明的課題の解決に向けて」を大会の統一テーマとし、2025 年に開催が決まった大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」にどうつなげるかを比較文明学の視点から議論することを目的とした。今年は 1970 年の大阪万博から 50 年にあたり、梅棹忠夫、小松左京、加藤秀俊らが起草にかかわった「人類の進歩と調和」の理念がいかに継承されてきたか、また日本開催の次の万博に向けていかに継承していくかを問う絶好の機会と考えた。

　それに加え、新型コロナウィルスによる感染症がパンデミックとなり、人類の生存に対するグローバルな脅威となっている。この問題の解決に向けてはたんに医学的な見地からの対応にとどまらず、経済や政治を巻き込んだ社会全体の課題が浮上している。しかも、将来の展望が見えないなかで喫緊の対策が求められている。換言すれば、「いのち」をめぐる重大な文明的課題が急浮上し、このような事態に全世界が直面しており、臨機応変に本大会を開催する必要がある。一般にパンデミックは早期の解決は困難であり、長期戦を強いられることは必至の情勢である。とするならば、感染症の問題もひとつの話題としながら、人類の未来社会について議論することは時宜を得ていると言えるだろう。

　「『いのち』をめぐる文明的課題の解決に向けて」という統一テーマのもとに、3 つのサブ・テーマに分かれたシンポジウムを企画する。サブ・テーマは①「生き物をめぐって現代文明を考える」②「万博とユネスコの文明論的意義を考える」③「社会・文明・思想から「いのち」を考える」とし、生物多様性と文化多様性に根ざした文明多様性の是非について議論する。

　また国際比較文明学会にも参加を求め、日本の比較文明学会の人権、生命倫理や地球倫理の推進者との熟議をとおして、あらたな展望をひらきたい。その一方、万博やユネスコといった文化的多様性を尊重する国際的な仕組みのありかたについても検討を加える。

３．**期　　間**：11 月 21 日（土）～23 日（祝・月）　※3 日間

４．**会　　場**：国立民族学博物館　２階セミナー室

５．**主　　催**：比較文明学会、国立民族学博物館、千里文化財団

６．**大会実行委員会**：

委員長	中牧　弘允	国立民族学博物館名誉教授・千里文化財団理事長（関西支部長）
副委員長	池谷　和信	国立民族学博物館教授（関西支部）
委　員	小倉　紀蔵	京都大学教授（関西支部）
	朱　　捷	同志社女子大学教授（関西支部）
	仲　万美子	同志社女子大学名誉教授（関西支部）
	佐々木一也	立教大学名誉教授（研究・企画委員会）
	島田　竜登	東京大学准教授（編集委員会）
	宮嶋　俊一	北海道大学准教授（広報委員会）
	加藤　久典	中央大学教授（国際委員会）
	保坂　俊司	中央大学教授（第 37 回大会実行委員長）
	大森　一三	東京学芸大学准教授（学会事務局）

７．**開催方式**：オンライン方式＋会場参加（いずれも事前予約制。会場参加は申込み順）

８．**大会参加費**：学会員：3,000 円、非学会員：500 円（資料代として）

９．**参加人数**（延べ人数）：369 名

10. 大会プログラム

11 月 21 日（土）9：30～17：30
会場：国立民族学博物館・第 4 / 5 セミナー室

個人研究発表 A（第4セミナー室）　司会：宮嶋俊一（北海道大学）
・10:00～10:30　田中賢司：Several Problems in Maritime English Education Encountered by Professional Seafarers through Basic Vocational Training during the COVID-19 Pandemic
・10:30～11:00　犬塚潤一郎：視覚技術と使用――人間性の再生の契機としての
・11:00～11:30　三枝守隆：ウィリアム・マクニールの『疫病と世界史』― ポスト・コロナ時代の課題
・11:30～12:00　小林雅博：コロナの時代の「生」

個人研究発表 B（第5セミナー室）　司会：佐々木一也（立教大学名誉教授）
・10:00～10:30　鎌田出：人の将に死なんとするや、その言や善し―文明葛藤の時代を生きた吉田松陰辞世の漢詩に関する一考察
・10:30～11:00　星野克美：「人新世」時代の「思弁的非在論」 ― 「気候力動性」による「人類絶滅学」
・11:00～11:30　川口文夫：「いのち」をめぐる文明課題の解決に向けて
・11:30～12:00　秋丸知貴：心理的葛藤の知的解決と美的解決 ― 死を巡るグリーフケアの比較考察

シンポジウムⅠ「生き物をめぐって現代文明を考える」（第4セミナー室）
・14:00～14:10　挨 拶：原田憲一（比較文明学会会長）、吉田憲司（国立民族学博物館館長）
・14:10～14:30　司会＆趣旨説明：池谷和信（国立民族学博物館）
・14:30～15:00　生き物の「いのち」：遠藤秀紀（東京大学）
・15:00～15:30　東京における庭の植物と人：髙野哲司（総合研究大学院大学）
・15:30～16:00　生き物とグローバルヒストリ―世界商品化する真珠とペルシア湾の採取者たち：鈴木英明（国立民族学博物館）
・16:00～16:30　生き物とミュージアム―人新世におけるいのちの表現を考える：野林厚志（国立民族学博物館）
・16:40～17:30　総合討論　コメント：松本亮三（東海大学名誉教授）

11 月 22 日（土）9：30～17：30
会場：国立民族学博物館・第 4 / 5 セミナー室

個人研究発表 C（第4セミナー室）　司会：仲万美子（同志社女子大学名誉教授）
・10:00～10:30　カク・ミンソク：パラダイムとしての文化―トーマス・クーンの『科学革命の構造』から考える比較文化論
・10:30～11:00　鈴木達也：愛知県新城市が進めるニューカッスル・アライアンス構想
・11:00～11:30　伊藤陽寿：羽地朝秀と唐・大和――主に首里城焼失・再建との関わりから
・11:30～12:00　銭正枝：「茶の美」から見た東洋の文明――岡倉天心、鈴木大拙、柳宗悦を中心に

個人研究発表 D（第5セミナー室）　司会：小倉紀蔵（京都大学）
・10:00～10:30　林正博：騎馬民族征服説に対する比較文明論的再考察
・10:30～11:00　岩佐托朗：スペインの日本研究が果たす日本文明・文化の普及と受容に関する考察
・11:00～11:30　服部匡成：ブラハ・村山・トインビーの文明サイクル理論の詳細比較（短期的な周期）
・11:30～12:00　横山玲子：文明とまなざしに関する一考察

シンポジウムⅡ　万博とユネスコの文明論的意義を考える（第5セミナー室）
・13:00～13:10　司会＆趣旨説明：中牧弘允（国立民族学博物館名誉教授）
・13:10～13:40　「普遍的」装置としての万博 ― その足跡と可能性：佐野真由子（京都大学）
・13:40～14:10　ユネスコの文明論的意義 ― 文化から文明へ、わたしは何を残したのか？：服部英二（元ユネスコ文化担当特別事業部長、麗澤大学）
・14:10～14:40　博覧会の聖地「上野公園」からみる日本の近代化：沓名貴彦（国立科学博物館）
・14:40～15:10　空間のもつ文明論的意義・千里万博公園：五月女賢司（吹田市立博物館）
・15:20～16:10　総合討論　コメント：赤坂信（千葉大学名誉教授）

11 月 23 日（月）10：00～17：40
会場：国立民族学博物館・第 5 セミナー室

シンポジウムⅢ　社会・文明・思想から「いのち」を考える

・10:00～10:10　司会＆趣旨説明：原田憲一（比較文明学会会長）
［講演］
・10:10～11:05　Human Rights,Those Who are Governed and the Legitimacy of Law Enforcement
Lynn Rhodes（国際比較文明学会会長、蘇州大学名誉教授、国際コンサルタント）
・11:05～12:00　The Developing Global Crisis and Survival of Human Civilizations
Michael Andregg（聖トマス大学名誉教授、国際比較文明学会会員、平和運動活動家）
［報告］
・13:00～13:30　マリ社会における「いのち」：ウスビ・サコ
・13:30～14:00　世界をつなぐユニバーサル・ミュージアム―“触”の特別展から 2025 大阪万博へ：
広瀬浩二郎（国立民族学博物館）
・14:00～14:30　生命倫理から考える「いのち」：カール・ベッカー（京都大学）
・14:30～15:00　宗教倫理における「いのち」：島薗進（東京大学名誉教授、上智大学）
・15:10～15:40　生き物と信仰・宗教：鎌田東二
・15:40～16:10　エイジングフレンドリー・コミュニティにおける「いのち」：
鈴木七美（国立民族学博物館）
・16:10～16:40　今日の韓国で加齢と生命の再開闢を探る ― マネー資本主義文明から生命尊厳文明への
大転換を目指す：金泰昌（韓国東洋フフォーラム）
・16:50～17:40　総合討論　コメント：保坂俊司（中央大学）

■2020年度貸借対照表

貸借対照表

令和３年３月３１日 現在

科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部	円	円	円
１．流動資産			
（１）　現金預金	40,852,822	21,989,190	18,863,632
（２）　未収入金	19,856,447	16,349,826	3,506,621
（３）　貯蔵品	38,528,319	42,805,109	△ 4,276,790
（４）　前払費用	1,965,915	2,185,627	△ 219,712
流動資産合計	101,203,503	83,329,752	17,873,751
２．固定資産			
基本財産			
（１）　基本財産特定資産	30,000,000	30,000,000	0
その他の固定資産			
（１）　車輌	1	1	0
（２）　什器備品	401,291	496,029	△ 94,738
（３）　電話加入権	594,951	594,951	0
（４）　差入保証金	1,100,000	1,100,000	0
その他の固定資産合計	2,096,243	2,190,981	△ 94,738
固定資産合計	32,096,243	32,190,981	△ 94,738
資産合計	133,299,746	115,520,733	17,779,013

科目	当年度	前年度	増減
Ⅱ　負債の部	円	円	円
１．流動負債			
（１）　未払金	52,841,303	83,181,471	△ 30,340,168
（２）　前受金	500,000	500,000	0
（３）　預り金	270,734	268,314	2,420
流動負債合計	53,612,037	83,949,785	△ 30,337,748
負債合計	53,612,037	83,949,785	△ 30,337,748
Ⅲ　正味財産の部			
正味財産	79,687,709	31,570,948	48,116,761
負債及び正味財産合計	133,299,746	115,520,733	17,779,013

■2020 年度理事会及び評議員会の開催状況

□理事会

第 39 回理事会（2020 年 6 月 2 日開催）での審議事項

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、報告事項とともに承認された。

審議事項：
第 1 号議案　2019 年度事業状況報告について
第 2 号議案　2019 年度収支決算報告について
第 3 号議案　評議員の辞任に伴う後任候補者の推薦について
第 4 号議案　監事の辞任に伴う後任候補者の推薦について
第 5 号議案　公益認定申請について
第 6 号議案　公益認定申請に伴う定款の一部変更等について
第 7 号議案　特定費用準備資金等取扱規程（案）について
第 8 号議案　在宅勤務制度規程（案）について
第 9 号議案　第 20 回評議員会の招集及び付議議案について

報告事項：
（1）新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館の対応について
（2）公益認定申請に伴う未払金の対応について

第 40 回理事会（10 月 20 日開催）での審議事項

半期毎の事業状況報告及び追加事業について諮り、報告事項とともに承認された。

審議事項：
第 1 号議案　2020 年度上半期実施事業報告について
第 2 号議案　2020 年度下半期追加事業報告について

報告事項：
（1）公益認定申請について
（2）基本財産について
（3）2021 年度事業計画（案）について

第 41 回理事会（2021 年 2 月 25 日開催 ）での審議事項

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、オンライン併用で開催し、下記の内容について諮り、報告事項とともに承認された。

審議事項：
第 1 号議案　2021 年度事業計画（案）について
第 2 号議案　2021 年度収支予算（案）について
第 3 号議案　基本財産の繰入（増額）について
第 4 号議案　公益認定に伴う登記事項の変更について
第 5 号議案　役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程について
第 6 号議案　各種規則及び規程内容について
第 7 号議案　千里文化財団のロゴマークについて
第 8 号議案　第 21 回評議員会の招集及び付議議案について

報告事項：
（1）公益認定について
（2）評議員の辞任について
（3）一般社団法人アマゾン資料館に対する協力について

□評議員会

第 20 回 評議員会（6 月 23 日　※書面）での審議事項等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、みなし決議に切り替えて開催することとなり、下記の内容について諮り全員が了承した。

審議事項：　第 1 号議案　2019 度事業状況報告について
第 2 号議案　2019 年度収支決算報告について
第 3 号議案　辞任に伴う評議員の選任について
第 4 号議案　辞任に伴う監事の選任について
第 5 号議案　公益認定申請について
第 6 号議案　公益認定申請に伴う定款の一部変更等について

報告事項　（1）新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休館の対応について
（2）理事会の審議事項等について

第 21 回 評議員会（2021 年 3 月 16 日　※書面）での審議事項等

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、みなし決議に切り替えて開催することとなり、下記の内容について諮り全員が了承した。

審議事項　第 1 号議案　2021 年度事業計画（案）について
第 2 号議案　2021 年度収支予算（案）について
第 3 号議案　役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程について

報告事項　（1）公益認定について
（2）認定に伴う登記事項の変更について
（3）評議員の辞任について
（4）基本財産の繰入（増額）について
（5）千里文化財団のロゴマークについて
（6）理事会の審議事項等について